

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第47回 負けてはいられん！中小企業！！「^{さんしよくしゅぎ}三職主義^{すす}」の薦め

景気が良くなってきた。新聞、テレビで政治家は胸を張る。評論家や経済学者は、この間まで政府の失策を批判し続けてきた連中が、あたかも自分の手柄の如く、如何に景気が良くなっているかの薄べったい理論を論じ始めた。

確かにマクロのデータは景気の回復を物語っている。しかしその殆どは、過酷なまでにリストラを強要し、中小企業にコスト負担を押し続けてきた大企業の恩恵、でもその結果は、行き過ぎたデフレに歯止めをかけ、インフレ経済へのプロローグ。我々市民生活の周辺に、物価の値上げ現象がちらほらと起こってくるに違いない。それでもまだ、「不況・不況」を連呼されるよりは「マシ」ということかもしれない。

でも、相変わらず中小企業の実態は、それほど明るい要因は見当たらない。これ以上リストラが出来ないギリギリの人員で、今の、いやそれ以上の売上を確保しなければならない。「ウルトラ・マジック」でもない限り、本当に「^{しんどい}しんどい」経営を強いられているのが現状である。中小企業は、今が「^{たえどき}堪え時」だ。今この時を必死になって乗り越えれば、確かに明るい見通しが出てくるかもしれない。全てに余裕がない中小企業、一体どうすればいいのだろうか？

とにかく、今まで通りのオペレーションで動いていては、だめだ。人がいない中、今以上の売上を確保するには、現在の自分が2倍、3倍の動きをしなければならないだろう。それを仮に、「^{さんしよくしゅぎ}三職主義」と名付ける。「三職」とは、たとえばホテルの場合、3種類のユニフォームを持ち、時間や曜日により、それぞれを着替え、それぞれの働きを全うする…。つまり、「私は経理の仕事だから、」という発想で、経理の職務だけを一生懸命やればいい...という固定概念を切り捨て、TPO（時と場所と状況）に応じ、3種類の仕事を見事に遂行する。こうすることにより、人手不足の人員の中で、より効率的な労務体制を確立し、収益向上を図ることを目的とする。

実際の動きは、全て労働関係法規を遵守することは、言うまでもない。現実的に、不可能な施策ではない。従って、今まで以上に過酷な労働条件を強いることには当たらない。要は、「意識」の問題と「やる気」の問題に尽きる。

...全従業員が同じ発想を持ち、この動きをしないスタッフは、仲間と認めない、むしろ我が社の経営を阻害する「敵」と見なす！...

仮に、全社一丸となって、こんな社風が形成されたとすれば、中小企業もまだまだ、十分存続意義があると言えよう。いや、伸びている大企業こそ、実はこんな発想で仕事をこなしている実態を知っている。 **負けてはいられん！中小企業！！**がんばる所存である。